

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

- ・官民学協働による企業説明会等の取組み

2 取組期間

- ・平成 29 年 7 月～（継続中）

3 取組概要

進学や就職による若者の流出が著しいため、若者やその保護者等に人口減少の現状や意外と知られていない地元企業について知ってもらう機会を作ることで、地元に住み続けたい、地元で働きたいと思ってもらい、若者の流出に少しでも歯止めをかける。

4 背景・目的

- ・平成 29 年 7 月、財務省福岡財務支局から鹿島市地方創生担当理事として出向。着任以降、鹿島市内の団体機関や企業に対し挨拶周りで訪問した際、各方面から「交流人口は年間 300 万人を超えるものの、市内の若者流出が著しい」との悩みや声が多く、訪問先で聞かれたところ。
- ・しかしながら夢や希望を持つ若者を引き止めることは出来ず、そうであるならば、「若者自ら鹿島市や佐賀県に住み続けたい、働き続けたいと思って貰う事が大事だ」と考え、直接「若者のハートに訴える必要があるのではないか」「保護者や市民に訴える必要があるのではないか」と思い、近隣の 4 高校に「日本の人口減少や佐賀県の実情などを生徒に伝える機会を頂けないか」と相談したところ、学校側も「佐賀県全体の若者流出に危機感を感じているところだ」と聞き、快諾を得たことから近郊の高校と調整し、講演を実施。
- ・佐賀県鹿島市をあらゆる側面から応援するため、派遣元である財務省及び財務省福岡財務支局を大いに活用。

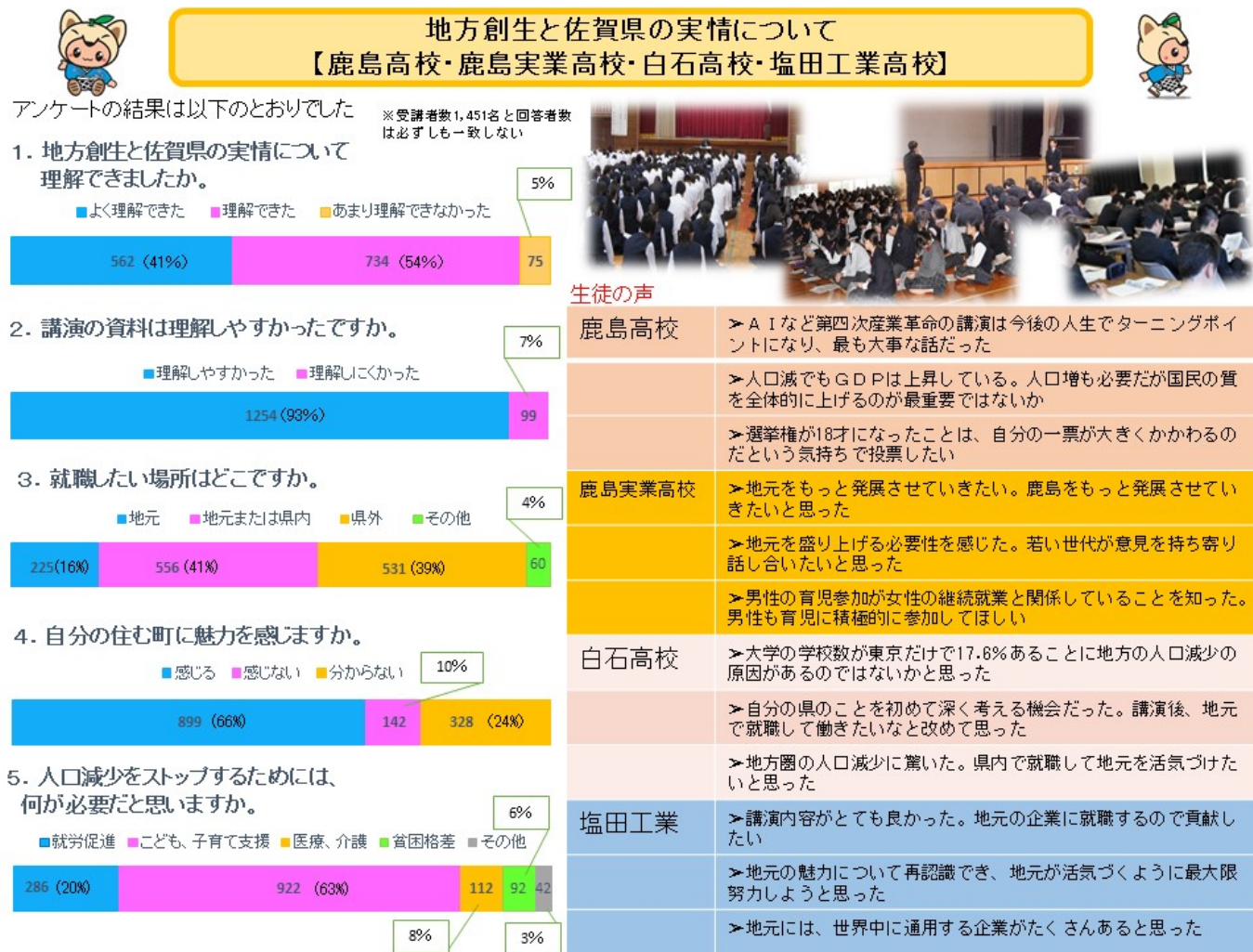
5 取組の具体的内容

(1) 各高校に対する地方創生の講演

平成29年10月～11月にかけて、鹿島市近郊4高校の生徒1,451名及び教師に対し講演を実施。

- ①地方創生の概要、②イノベーションを起こす必要性、③成長戦略である「未来投資2017」の概要、④市内に多く所在する「ものづくりの中小企業」の概要、⑤「郷土の素晴らしさ」などについて説明。

《各高校に対する地方創生の講演のアンケート結果》



(2) 市内の団体機関及び保護者の集まりに対して、平成30年3月6日に地方創生全体概要について講和を実施。

- (3) 平成29年8月に、市内の経済界に対して、財務省主計官による「日本の財政について」の講演と、講演後に経済界と財務省との意見交換を実施。



- (4) 平成29年11月に、市内の中学校生徒に対して、財務省副大臣秘書官による「財政教育プログラム」を実施。



- (5) 財務省政策広報誌「ファイナンス」へ鹿島市の地方創生に対する取組みを寄稿。7月発行予定。
(6) 月刊経済紙「コロンブス」による地方創生についての取材。8月号、9月号連載にて掲載予定。
(30年5月29日～30日で取材を受ける)
(7) 鹿島市近郊4高校の生徒1,451名のアンケート結果を受け、市としては初めてとなる高校2年生を対象とした「企業説明会」を平成31年2月6日に実施する。現在各関係機関と調整中。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

○講演関係（鹿島市で初めての取組み）

- ・挨拶回り先から地方創生における鹿島市の問題点を直接ヒアリング。その問題点を解消するため、進学や就職を控える高校生の参考となる内容（普通校⇒第4次産業革命やイノベーションの必要性等。実業校⇒市内企業の概要や郷土愛等）の講演を実施。
- ・市の教育委員会は中学校以下については管轄しているが、高校は県の教育委員会が管轄しているため、市が高校に対して何か働きかけるような発想がそもそもなかった。これは無理のないことだと思い、「よそ者」である理事が派遣後、風穴を開ける。
- ・生徒からのアンケート結果や講演内容については、プレス発表、市報、HP掲載、市内中小企業への配布、鹿島市公式のLINE@アカウントでまちの情報として発信するほか、ケーブルテレビでも放映するなど、伝える手法に工夫を凝らした。
- ・「鹿島市PTA連合会活動研究会」の席上、市長から「高校生をはじめ、市民へも地方創生の講演を理事が行う」旨、呼びかけを行うほか、教育委員会が定例的に実施する「校長会」においても同様の内容で呼びかけを実施。担当である理事は各小学校、中学校、高校を戸別訪問及び文書案内にて講演を行っていくことを伝えることに傾注。

○財務省主計官による講演及び経済界との意見交換（鹿島市では初めての取組み）

○財務省福岡財務支局による市内中学校への財政教育プログラムの実施（鹿島市では初めての取組み）

7 取組の効果・費用

《効果》

○講演関係

- ・生徒からは「AIなど第四次産業革命の講演は、今後の人生でターニングポイントになり、最も大事な話だった」「地元を盛り上げる必要性を感じた。若い世代が意見をもち寄り話したいと思った」「地方圏の人口減少に驚いた。県内で就職して地元を活気づけたいと思った」などの感想があった。教師からも「生徒に講演を行ってくれる講師は数多くいるが、地元企業の素晴らしさなどを生徒に伝えてくれた講師は初めてだ」など生徒や先生たちから大変好評を得たところ。
- ・アンケート結果を見た市民から、理事宛に「学生に対する講演は、今後この地域の未来を左右する非常に重要なこと。全面的に賛同する。是非一度お会いし、意見交換をさせていただきたい」と励ましのメッセージを頂く。
- ・講演を受けた生徒からも「将来、佐賀の活性化に関わる仕事をしたいと考えている。今回の講演は、佐賀の実情を知ることができ、興味深く聞かせていただいた。私は今、入試のため将来に関する情報を集めている。よろしければ、もっと詳しく地方創生についてお話を聞きたいと思う。時間を作って頂けないか」との問い合わせを受ける。
- ・このように、人口減少への問題意識が高まり、また地元にも高い技術を持った企業があるとの認識を持ってもらうことができた。

○財務省主計官による講演及び経済界との意見交換

- ・意見交換においては、経済界から消費増税に伴う軽減税率、働き方改革、為替問題、事業承継等について活発な意見が出るなど有意義な意見交換会となり、鹿島市の経済界から歓迎の意を受ける。
- ・国の取組みや日本の財政について、理解と関心を持ってもらう機会となった。

○財務省福岡財務支局による市内中学校への財政教育プログラムの実施

- ・生徒からは、子育て支援に重点を置いた「日本の未来を育てる予算」や、所得税率を上げ教育費に配分する方針を示した「さまざまな個人の才能が埋もれない、能力が発揮しやすい社会」の提案など、活発な意見が出た。
- ・日本の財政について、理解と関心を持ってもらう機会となった。

≪費用≫

費用については、すべて無料。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

○講演関係

- ・学校側が非常に多忙なため、調整に時間を要した。
- ・難しい講和内容を噛み砕いて分かりやすく説明を行うことや生徒が興味を持つような内容に絞り込むことに苦労した。
- ・今般の社会状況を鑑みると、学ぶべき教科内容のほか、道徳や倫理観、郷土愛などを子供たちに「伝えていく」ことが非常に重要であると認識。そのため今後、定期的に小学校、中学校、高校へ講演等の取組を進めていくこととしているが、学校側が非常に多忙なため、その機会が得られるかが課題。

9 今後の予定・構想

講演後のアンケートで、数多い生徒から「地元就職して地域を活気づけたい」「地元を盛り上げたい」と多くの声が寄せられたため、この要望に応えるべく、現在以下のことについて、理事が中心（鹿島市、鹿島商工会議所、近隣の高等学校が協働）となって、「プラットフォーム」設立に向け連携して調整を行っているところ。

- (1) 鹿島市及び商工会議所が一体となって、高校2年生を対象に「企業説明会」を実施する。
- (2) 総務部理事が毎年近隣の高校、中学校3年生に講演を行う。
- (3) 平成29年度から実施している小学生の市内企業訪問を継続して実施していく。

設立後には市、商工会議所、近隣の高等学校3者合意のもと「記者発表」を行い、市報に掲載するなど、見える「かたち」を披露することで市民に喜びや安堵感を少しでも感じて頂きたいと思っている。

なお、上記(1)については、平成31年2月6日に実施決定。**(鹿島市では初の試み)**

10 他団体へのアドバイス

- ・あらゆる機会を通じて、住民や市・町内の生の声をトップヒアではなく事務レベルで聞くことが重要。
- ・「若者流出」については、他団体も同様であると認識。積極的に若者と交流する機会を設け、大人から子供へあらゆることを伝えていくとともに、子供たちの意見に耳を傾けることが必要。

・取組についてのホームページ上の記載（URL）：<http://60.32.221.106/main/13154.html>

≪内容は以下のとおり。（NO14⇒3、NO15⇒4）≫



佐賀県鹿島市 平成29年11月8日



かしまホットニュース

鹿島市の最近の話題や気になる話題をご紹介します。No.14
市のホームページでもご覧いただけます

1. 駐日タイ王国特命大使が鹿島市へ！

佐賀市で開催された「タイフェアinSAGA2017」に伴い佐賀県を訪問された**駐日タイ王国特命大使**のバンサーン・ブンナーク氏が、鹿島市の祐徳稲荷神社を訪ねられました。市長をはじめ門前商店街や地元園児の皆さんが、タイ国の国旗を振って歓迎しました。大使は、地元の熱烈的な歓迎や**タイ語で書かれたおみくじ**に感激されていました。祐徳稲荷神社は、最近、タイの映画やドラマの舞台となっていることから、**多くのタイ人が訪れています**。



※訪時の写真
（大使、右から4番目）

2. 県内を運行中！ラッピングバス！

市内への観光客を増加させるために、市の観光スポットをラッピングしたバスが県内を走行します。11月1日（水）には、**ラッピングバス**の出発式があり、大勢の参加者が鮮やかに描かれたバスに見入っていました。バスの側面には、白壁土蔵など歴史的町並みが残る「**肥前浜宿**」とラムサール条約登録地である「**肥前鹿島干潟**」を、背面には、鹿島市の一大イベントである「**鹿島酒蔵ツーリズム**」が描かれています。バスは、路線バスとして、佐賀市や武雄市、嬉野市などへの路線を走行して、鹿島市の観光PRに貢献してくれそうです。



運行するラッピングバス

3. 郷土に愛着と誇りを！講演会好評！

鹿島市や近隣市町に所在する鹿島実業高校、白石高校、塩田工業高校の生徒に、「日本における人口問題の現状と佐賀県の状況」について分かりやすく説明をする講演会が生徒や先生たちから好評を得ています。講師は、今年7月から地方創生推進のために財務省から市へ出向している職員（納塚真琴さん）が務め、講演では、**世界に誇れる技術を持つ鹿島市の企業の紹介**なども説明しています。生徒からは、「**鹿島には世界にも通用するものづくりがあって驚いた**」「**地元に残って就職しようと思った**」「**地元愛が深まった**」などの感想をいただき、郷土教育としても非常に大きな役割を果たしています。この講演を通して、生徒たちが郷土に愛着を持ち、人口流出に少しでも歯止めがかかればと期待しています。



「講演会（鹿島実業高）の様子」

4. 牡丹餅のように粘り強く！牡丹餅会！

鹿島高校と鹿島実業高校の3年生がお互いの健闘を誓い合う「**牡丹餅会**」が10月20日（金）に鹿島高校の体育館で開催されました。「牡丹餅会」は、**第13代藩主鍋島直彬公**が鹿島中の教諭と生徒を邸内に招いて、牡丹餅を振舞って健闘を祈ったことが始まりで、今年で**105回目**となります。当日は、生徒による日本舞踊やピアノ演奏、高校対抗の綱引きが行われ、大いに盛り上がり、最後には、両校の生徒が混ざって牡丹餅を食べ、高校の垣根を越えて絆を深めていました。



「牡丹餅会」での日舞披露

5. 東京で鹿島市PR！「佐賀さいこう！応援団」交流会参加！

10月30日（月）に、東京都白金台の「八芳園」において、「**佐賀さいこう！応援団**」交流会が開催されました。「佐賀さいこう！応援団」は、首都圏での佐賀県情報発信の強化、県産品の販売強化等を目的に、「佐賀が好き、佐賀を応援したい」という思いを持つ方々で昨年結成されました。当日は、樋口市長も出席し、**約500人**の参加者でにぎわいました。鹿島市のPRブースでは、観光や物産紹介のほか、人的ネットワークの構築のため、PR活動をおこないました。



鹿島市のPRブースの様子



鹿島は色々なことに取り組んでいます。全国の方に鹿島を知ってもらうために、みなさんも、SNSで広めてください。



かしまホットニュース

鹿島市の最近の話題や気になる話題をご紹介します。No.15
市のホームページでもご覧いただけます

1. 鹿島市が総務大臣表彰！

11月20日(月)、**鹿島市**が、市民と一丸となって自ら創意工夫を行い、優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に尽力している自治体として、**天皇皇后両陛下**のご臨席のもと開催された**地方自治法施行70周年記念式典**において、**総務大臣表彰**を受賞しました。この受賞は、これまで、市民の皆様と行政が協働して、懸命に地域資源を磨き上げ、頑張ってきたことが大きく評価されたもので、その長年の取組や施策への評価の集大成として、大変喜ばしい受賞です。



70周年のロイヤルマーク

2. 鹿島錦保存会50周年！鹿島錦の屏風をご寄附！

11月16日(木)、鹿島錦保存会発足から来年で**50周年**になることを記念して制作された**鹿島錦の屏風**をご寄附いただきました。屏風は、図案の構想から**5年がかり**で会員の方々が制作されました。また、いただいた屏風(二曲一双のうち半双)のサイズは、縦約2m、横約1.8mで、**77枚の鹿島錦**が張り合わせてある大作です。当日は、保存会の代表である樋口ヨシノ様(101歳)から樋口市長へ贈呈していただきました。屏風は、市役所で大切に飾らせていただきます。本当にありがとうございました。



「寄附いただいた鹿島錦の屏風」

3. 県大会優勝！鹿島西部中学校陸上部が全国大会へ！

11月10日(金)に開催された県中学校駅伝競走大会の女子の部で、**鹿島西部中学校**が見事優勝に輝きました。女子は**5区間12km**を競い、西部中のタイムは、**42分47秒**で、2位の嬉野中学校とは49秒差でした。今後、**12月17日(日)**に滋賀県野洲市で開催される**全国中学校駅伝大会へ出場**されます。11月17日(金)には、出場選手たちから、市長へ優勝と全国大会への出場報告に訪問されました。今後のご活躍を祈念いたします。



西部中陸上部の選手たち

4. 県内中学校初！鹿島西部中学校で財政教育プログラム！

11月27日(月)、**県内中学校では初めてとなる特別授業「財政教育プログラム」**が、鹿島西部中学校で行われました。「財政教育プログラム」とは、子どもたちが国の財政について学ぶなかで、国のあり方について広く興味を持ってもらい、自分たちの国の未来について考え、判断できる子どもたちを育成することを目的とされています。当日の授業では、3年生の1クラスが、財務省福岡財務支局佐賀財務事務所から「日本の財政」について学んだ後、グループに分かれ、財務大臣になったつもりで、**仮想による国の予算編成**を行い、その**予算編成の項目や理由などについて発表**を行いました。生徒たちにとって、自分の住む地域や国の将来について考えるよいきっかけとなり、有意義な授業になったことと思います。



財政教育プログラムの様子

5. 「食のシンポジウム 宝の海・有明海 in Kashima」賑わう！

11月26日(日)、世界的にも貴重なラムサール条約湿地に登録された「**肥前鹿島干潟**」がある鹿島市の生涯学習センターエイブルで、「食」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。当日は、鹿島の食材を使用した「**食と美のワークショップ**」や「**マロン氏(フードスタイリスト)の講演**」、「**野菜スープのふるまい**」などのイベントに多くの方が参加され賑わいました。有明海の恵みを受けた食文化の魅力が発信されたこのシンポジウムを通して、私たちの身近な海である**有明海の再生・保全**についての理解が深まったことと思います。



「ヨカと鹿島の食べ物でテトリス」のワークショップ



鹿島は色々なことに取り組んでいます。全国の方に鹿島を知ってもらうために、みなさんも、SNSで広めてください。